

2024年8月5日

2025年3月期 第1四半期 決算短信補足資料



証券コード：4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

ハイライト

2025年3月期 第1四半期連結決算

売上高

- ✓ **163億円、前同比2.1%増加**
医療用医薬品事業、動物用医薬品事業の伸長により増収

売上原価

- ✓ **81億円、売上原価率 前同比3.4ポイント改善**
先発医薬品の伸長による製品ミックスの改善、コスト削減の取り組み等が寄与

販売費及び
一般管理費

- ✓ **64億円、売上高販管費率 前同比3.3ポイント増加**
研究開発の進展に伴う費用の増加等の影響

営業利益

- ✓ **17億円、前同比3.1%増加**
売上、売上総利益の増加により増益

2025年3月期 通期連結 ※変更はありません

業績予想

- ✓ **売上高 630億円、前同比0.2%増加**
- ✓ **営業利益 67億円、前同比3.1%増加**

損益計算書（連結）

単位：百万円	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	増減額	増減率
売上高	16,023	16,352	329	2.1%
営業利益	1,704	1,758	53	3.1%
経常利益	1,809	1,813	3	0.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,428	1,273	△155	△10.9%

増減要因

- ✓ 地政学リスクの高まりや円安の進行、原材料・資源価格の上昇など、先行き不透明な状況が続く中で、当社グループでは医療用医薬品事業、動物用医薬品事業の伸長等により増収となりました。
- ✓ 利益面においては、研究開発費等の費用の増加はあったものの原価改善等に努め、営業利益、経常利益ともに前年同期を上回る結果となりました。
- ✓ 親会社株主に帰属する四半期純利益については、前年に特別利益として計上した投資有価証券売却益の反動に加え、法人税等の増加により前同比10.9%減となりました。

事業別売上高（連結）

単位：百万円	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品事業	14,420	14,493	88.6%	73	0.5%
アニマルヘルス事業	1,560	1,800	11.0%	240	15.4%
その他事業	42	57	0.4%	15	37.6%
合計	16,023	16,352	100.0%	329	2.1%

増収要因

- ✓ 内科、産婦人科、泌尿器科の3分野に注力している医療用医薬品事業は、毎年の薬価改定の影響を受けつつも全般的に堅調に推移しました。産婦人科製品の「レルミナ」「ドロエチ」が順調に増加し、内科製品の「チラーヂン」「リフキシマ」も着実に伸長しました。
- ✓ アニマルヘルス事業においては、動物用医薬品や飼料添加物が好調に推移し、前同比15.4%増となりました。

主要製品売上高（医療用医薬品事業）

単位：百万円

領域	区分	製品	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期		2025年3月期		ご参考 期初計画	特記事項
			実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)		
内科	AG	高血圧治療剤 カンデサルタン類 ※1	2,599	2,230	△14.2%	8,447	△12.0%	8,626	薬価はダウンしたが数量ベースはほぼ維持
	先発品	甲状腺ホルモン製剤 チラーヂン	2,062	2,076	0.7%	8,018	2.0%	8,018	疾患啓発活動等により微増傾向
	先発品	難吸入性リファマイシン系抗菌薬 リフキシマ	1,525	1,645	7.9%	6,117	4.3%	6,117	ガイドライン浸透とともに堅調に推移
	先発品	抗甲状腺剤 メルカゾール	398	403	1.2%	1,510	△0.7%	1,510	想定通りの進捗
	GE	高血圧治療剤 アムロジピン	225	209	△7.3%	806	△4.1%	806	想定通りの進捗
産婦人科	先発品	子宮筋腫・子宮内膜症治療剤 レルミナ	2,576	2,644	2.6%	10,945	10.5%	11,251	子宮内膜症でのシェア拡大に注力
	GE	月経困難症治療剤 ドロエチ	1,401	1,743	24.5%	6,416	4.8%	5,990	薬価はダウンしたが想定以上の数量増
	AG	月経困難症治療剤 フリウエル	832	771	△7.4%	3,101	△6.1%	3,101	薬価はダウンしたが数量は増加
	先発品	黄体ホルモン製剤 ルテウム	440	556	26.3%	2,171	7.0%	2,106	外部要因等により伸長
	先発品	経口避妊剤 アンジュ	194	174	△10.2%	790	9.0%	790	他社品へ流出しているが処方提案に注力
	先発品	切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 マグセント ※2	154	192	24.7%	665	△5.8%	665	想定より上振れ
泌尿器科	GE	LH-RH誘導体マイクロカプセル徐放性剤 リュープロレリン ※3	1,192	1,021	△14.3%	3,962	△10.6%	3,962	薬価ダウンおよび先発品の影響

※1 配合剤を含む

※2 硫酸マグネシウム製剤の合算値

※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤との合算値

主要事業分野別売上高（アニマルヘルス事業）

単位：百万円

事業分野	2024年3月期 第1四半期	2025年3月期 第1四半期		2025年3月期計画	
	実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)
飼料添加物 混合飼料 飼料原料	965	1,160	20.2%	4,031	△0.2%
動物用医薬品 (畜水産+CA※)	576	625	8.5%	2,534	1.9%

増収要因

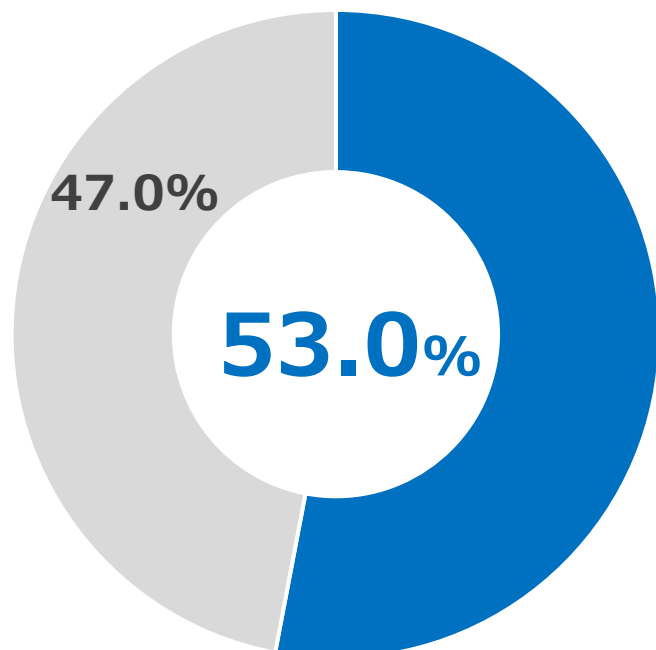
- ✓ 飼料添加物等の分野では、アミノ酸需要が堅調に推移したことを受け、アミノ酸飼料添加物を中心に伸長しました。
- ✓ 動物用医薬品分野では、畜水産用薬品やコンパニオンアニマル用医薬品が堅調に推移しました。

※ コンパニオンアニマル

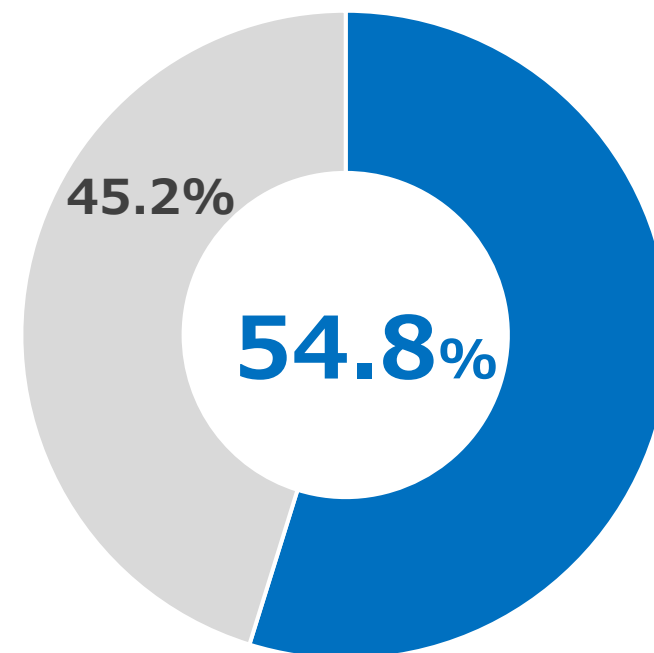
先発品・GE品売上高比率

■ 先発品 ■ GE品

2024年3月期 第1四半期



2025年3月期 第1四半期

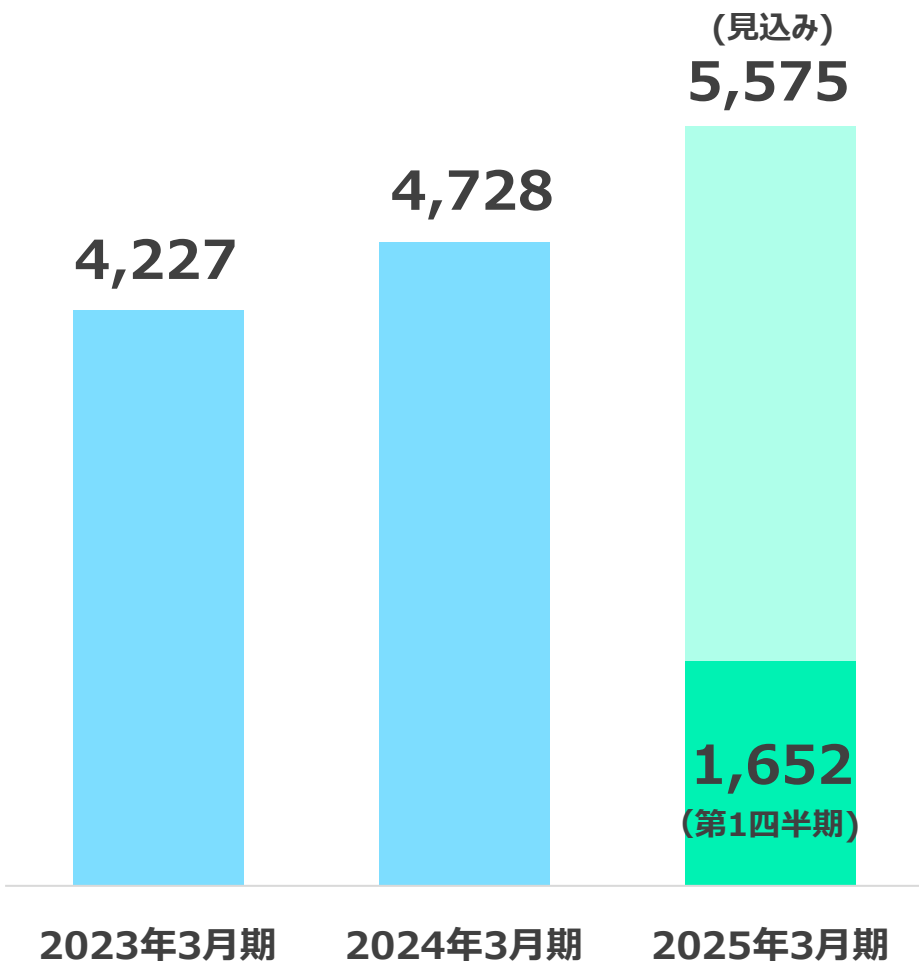


後発医薬品であるドロエチ配合錠の大幅な伸長がありましたが、レルミナ、リフキシマ、チラーチンの伸長により製品ミックスが改善し、先発品比率は1.8ポイント上昇しました。

研究開発の状況

研究開発費推移

(百万円)



2024年8月5日時点

開発番号(一般名)/領域・効能	状況
LF111 (ドロスピレノン) 避妊	申請済み
(オプション契約) PMS/PMDD治療薬 レナサイエンスにて開発中	Ph II (医師主導)
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮筋腫	Ph I / II
TRM-270 (癒着防止材) 消化器領域・産婦人科領域	Ph III
L-105 (リファキシミン) 肝性脳症 (小児)	承認
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 前立腺肥大症	Ph II
AKP-017 (テストステロン経鼻剤) 泌尿器科領域	開発準備中

・AKP-009 : 再度Phase I 試験を実施中